

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492600919	事業の開始年月日	平成25年8月1日
		指定年月日	平成25年8月1日
法人名	株式会社 エクシオジャパン		
事業所名	アクア淵野辺グループホーム		
所在地	(252-0202) 神奈川県相模原市中央区淵野辺本庁2-19-14		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和6年11月15日	評価結果 市町村受理日	令和7年5月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

コロナが5類となり、地域行事に参加できる機会を増やしていこうと現在、地域との話し合いで調整を行っている段階です。時間や内容にもよるが、地域清掃などは施設周辺でかまわないということで参加させていただいた。また、11月には地域の小学校2年生の社会科見学の一環に協力をさせていただき、今年度も協力依頼があり、参加させていただくことになりました。

施設内行事にも力を入れ、毎月イベント行事を行うよう体制を整え実施している。日常の活動やお手伝いでも、入居者一人一人がその場面で主人公になれるよう、また、職員もその場面場面で主役になれるよう、それぞれが生きがいや張り合いを持てるよう工夫をしています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年12月19日	評価機関 評価決定日	令和7年4月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR横浜線「淵野辺」駅北口から徒歩約20分の国道57号線に面した所にあります。立地環境は近くに小学校、直売所のある農地、歴史のある神社などがある住宅地です。木造2階建て2ユニットのグループホームです。法人は神奈川県内を中心に高齢者福祉事業を展開しています。

＜優れている点＞
事業所経営理念の「尊厳」「笑顔」「向上心」の下、利用者の笑顔が満足の証としてケアを行っています。利用者一人ひとりへの個別ケアをチームで取り組んでいます。月1回のフロア会議において利用者全員のカンファレンスを行い、ケアプランに反映しています。利用者ごとにケアプラン短期目標を転記したA4版1枚に時間帯別のケア実施内容を記録し、1日単位で実施状況を「見える化」し、ケアプランに沿った支援が来ているかが一目で分かるようにしています。また、終末期ケアは、アットホームな雰囲気の中で安心してもらうことを大事にしています。本人の意向を大切にすることや、必要な医療機関との連携など、一人ひとりに寄り添った支援に努めています。職員が不安にならないよう職員研修も行っています。

＜工夫点＞
ユニットごと担当者による行事会議を設けて、事業所全体の行事を企画から実施まで職員が自主的にを行っています。これにより職員が利用者の希望を汲み取ることへの促進と、職員間コミュニケーションの活性化に繋がっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	アクア淵野辺グループホーム
ユニット名	ユニット1

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	✓	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	✓	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		✓	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		✓	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		✓	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		✓	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		✓	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	✓	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
		✓	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		✓	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		✓	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		✓	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		✓	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	淵野辺理念に尊厳、笑顔とあり、尊厳は淵野辺で生活をされる入居者様に向けて、その人らしい生活を送れるように支援を行っています。笑顔は職員にもですが、一緒に笑顔になれるよう実践しています。	事業所の経営理念は「尊厳」「笑顔」「向上心」となっています。玄関や職場に掲出し、職場会議で話題にして意識づけをしています。利用者に笑顔になって貰うことを大切にしています。利用者の笑顔はケアに満足している証しと考えています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	昨年度、今年度初めにおいて地域清掃に入居者様数人が参加される。また、近くの小学校より社会科見学の一環で企業訪問に参加させていただき、2年生の生徒数十名が訪れた。	自治会の行事が活発に行われ、地域の繋がりががあります。散歩の際には挨拶を交わす関係づくりが出来ています。災害時などには地域の人が駆けつけてくれることになっています。近くの小学校の職場見学の授業に児童が訪問しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	上記にも記載したが小学生の見学は認知症という病気について、知ってもらいたい機会となっていると思います。また施設の職員の仕事などもその際に伝えているので、理解できるよう優しい言葉で説明をしています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度、長寿会会長の交代。自治会会長の体調不良などで地域の方々の参加が少なくなっているが、お誘いの声掛けの際に地域の運営など確認をさせていただいている。	年6回、自治会々長、民生委員、老人クラブ会長、地域包括支援センター職員、利用者、家族、管理者がメンバーで開催しています。今後、老人クラブ会長も参加してもらえることになっています。地域と交流しやすいよう年間行事を周知しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護者受け入れの際、また、その後のアフターケアについて相談をさせていただいています。	グループホーム連絡会へ参加し、情報交換やサービス向上に役立てています。地域包括支援センター職員との日頃のコミュニケーションの他に、介護認定更新や生活保護者のアフターケアで市担当職員が定期的に事業所を訪問しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3か月に一度、またその都度臨時の身体拘束防止委員会を行い、身体拘束になる事案、事象を話し合い、研修や会議の場において全職員に周知徹底を行っている。	身体拘束廃止の指針整備、委員会と研修の定期開催など身体拘束廃止への体制を整備しています。気になることがあった場合には職員間で指摘しやすい職場環境づくりに力を入れています。利用者一人ひとりの特性を把握し、相手の立場での個別ケアを大切にしています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	3か月に一度、また、その都度臨時の委員会を開催し話し合いを行っている。虐待に関しては見過ごすことなく、ヒヤリハットなどを活用して対処している。	虐待防止の指針整備、委員会と研修の定期開催など虐待発生防止のための措置を行っています。気になるケアについては管理者がその場で指導をしたり、月1回のフロア会議で話題にしています。内容によっては臨時委員会を開催し対応しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修機会は乏しく、学ぶ機会も少ないが、理念の中に盛り込まれ、職員同士の間では常に理解をするよう促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が初めに契約を結ぶ際に重要説明事項を説明、その後契約に入る流れで、一方的な説明はせず、常に同意を求め、質問には答えるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者、ご家族からの意見、質問を反映する機会の場、窓口は常に開いている。また運営側としてもより良い方向性を見出すために意見は反映している。	居室担当者は利用者との関係づくりを大切にし、散歩や入浴時など1対1になる機会に思いを汲み取っています。利用者の写真を載せた便りを月1回家族に送り、関係づくりをしています。家族の来訪時には必ず管理者は声かけし、意見や希望を聞いています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行っているリーダー会議、フロア会議において、住みやすい環境作りや介護しやすさの意見は聞き取り、運営に反映をしている。	管理者は、職員の出勤記録時に声かけして職員が話しやすい雰囲気づくりをしています。年2回個人面談の機会にも職員の意見や提案を聞いています。職員が主体となる行事会議を設けて、職員が自由闊達に意見を出し合う仕組みを作っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	会社として、努めていると思われる。	全職員を対象とするストレスチェックテストを年1回行い、職場環境の維持に努めています。介護福祉士などの資格取得者に対して資格手当制度があります。職員休憩室、職員トイレ、事務室内打ち合せ卓があり職員に配慮した間取りとなっています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	一人一人のスキルは違うので、同一視点では見ず、判断せず、その個人のスキルを活かすようアドバイスをしている。	年2回の個人面談により職員一人ひとりの力量と希望を考慮して職員を育成しています。パート職員から正規職員へのキャリアパスがあり、実績もあります。法人内他事業所への異動による育成もしています。職員の研修機会確保に配慮しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	社内の系列グループホームとは話し合いを持ち、改善し、質の高いサービスが行えるように努力はしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	努めています。 本人の安心を得るために常に耳を傾け、同調しながら、新しい環境になれる工夫を提案している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	努めている。 家族の不安は様々ではあるが、いちばんは安心して楽しく生活ができるかどうかのなので、日常の様子などを月一回の広報などで情報を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	努めている。 最初なセス面とより介護計画を作成し、それに沿ってサービスを実施している。また、適宜変更は必要な時は変更をし、ご家族などに同意をいただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	築いている。 入居者や家族目線で物事を判断し、サービスに活かしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	築いている。 家族の支えを必要としているときはこちらから相談、或いは家族から相談があれば対応をしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	努めたいと考えている。 しかし、コロナが明けたとはいえ、コロナ以前に戻すには関係各所への相談が必要である。	知人の来訪に際しては、居室でゆっくり話ができるように椅子と湯茶出しの接遇支援をしています。散歩では見慣れた街の風景の中に四季を味わう支援をしています。正月には地元の日枝神社へ初詣に行き、新年を迎えてもらっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	努めている。 普段、ふれあいの少ない各フロアでも合同行事を取り入れ、その場で交流ができるような話を企画段階から盛り込んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	努めてはいるが、契約終了後になると本人、ご家族から相談らしい相談は少ない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者主導で話を聞き、内容に見合った生活が送れるように検討し、支援している。	アセスメントを大事にしています。感情の乱れや不穏症状の際は、目の前の行動の理由は何なのか、利用者がどう思っているかを考えた声かけに注意しています。否定せず「そうなんです、今日はこうしてみますか」などの対応を心がけています。支援を統一するため、声かけやタイミングなどの対応の情報共有にも努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス前のアセスメントでバックグラウンドを聞き、どんな生活を送って来たのか把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人記録や支援経過において、心身の状況や健康状態をチェックし記録することで、全体で現状を把握している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	同意をもらった介護計画を実際に提供し、そこで得た情報をモニタリングを通してより良いサービスにするために話し合いを常に行っている。	ケアプラン作成時は管理者、ケアマネジャー、居室担当者で多角的な視点で話し合いをしています。月1回のフロア会議で個々の課題の情報を共有しています。毎日の個人記録にそれぞれの短期目標と支援内容を記載し、日々ケアプランに沿った支援を行ったかどうか確認できるようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別黄色く、支援経過記録を日々記入し、現状把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	敬語計画に沿ってサービスを提供しているが日々の中で体調の変化が見られた際などは、サービスの内容を変更し、現状に見合うであろうサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在は出来ていないので、今後の課題として実施に向けた検討を行っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療医の中には横柄な態度をとる医師もいるので、病院にと話し合いを行い、担当医を変えてもらった。それによって利用者の環境にも変化がみられた。	急変時も迅速に医療につなげられるように連携を大事にしています。利用者第一の医療に務め、日頃から相談しやすい関係を整えています。在宅時から薬の過剰摂取だった人が医師と連携を取り、減薬して体調が安定した事例があります。職員は利用者が処方されている薬の知識も勉強しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週一回、看護師が来て、その前の一週間に起こったことや対人・精神面の変化は常に報告をし、落ち着いた生活ができるよう支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合、最寄りの提携医療機関には情報を流していただくようお願いをしており、げんじょうのじょうほうをいただいている。 定形外では対応が難しく情報をくれる時とくれない時千差万別である。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	施設内研修において、重度化、看取りとなった時の場合のアプローチについて学んでいる。 看取りとなった時は地域と連携をし、残りの余命をその人らしく人生が送れるようにケアを行っている。	家族や他職種が連携し、本人が不安なく過ごせる生活ができるよう話し合いをしています。終末期ケア上級専門士資格取得の職員がいて、終末期ケアの知識やチームマネジメントの役割を伝えています。「本人の意向」を一番大切なこととし「元気に見送られたい」との本人の希望に寄り添い、利用者、職員皆でお見送りをした事もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修において緊急時対応は学んでいるが応急処置は、文章だけで実際に経験している職員は少ない。 他人の経験談を聞いて、終わっていることが多いので、今後の検討課題としたい。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2階の避難訓練は昼夜想定で行っている。 ただ、地域との協力の下では行っていないので今後の課題としたい。	BCP（業務継続計画）を策定しています。備蓄品は倉庫にしまわず、洗面所の下や職員休憩室に備蓄し、事業所全体で備蓄場所が把握できるようにしています。市の危機管理課が配布する消防訓練DVDも使用して防災の意識を高めています。	実際の災害を想定し、備蓄品の試用や近隣住民の参加など、課題の整理が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ここに合わせた声掛けや対応を変え接している。 排せつや入浴に関しては特に配慮をしてケアを行っている。	入浴時の更衣は脱衣所に大きなシーツを吊るして目隠しするなど、扉を開けても直接中を見ることができないよう工夫しています。申し送り時は、どの利用者の話をしているのか分からないように、ホワイトボードに指差しで確認をおこなうなどプライバシーの配慮を徹底しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々のケアの中で会話やしぐさなどからご本人の希望などを見つけ出せるように心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事、入浴など、施設の時間の都合で行っている中でも可能な範囲で希望に添えるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出来るだけご本人に選択をしていただけるようにと考えていますが、同じものばかりを着用する傾向がある為、助言、手伝いを行っている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生日などご本人様の特別な日に好きなものを提供している。 入居者様には材料の下ごしらえや盛り付けなどを行っていただいている。	「食事が楽しみ」の利用者共通の思いを大切に毎日職員が手作りしています。行事食では利用者が焼きそばや、寿司作りなどもしています。法人代表が選んだ瀬戸物の食器を使用し、家庭的な雰囲気を大切にしています。ADL低下で茶碗が持てなくなった人には軽いプラスチック茶碗や補助スプーンに変えるなど、安易に介助せず、保有能力を大事にし、自身で食べられるようにサポートしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分、排泄表にチェックをしている。水分などが進まない方には個別で好みの水分を提供するなど、対応をしている。 栄養状態については、定期的な血液検査にて確認をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立の方でもン仕上げの磨きは実施している。 義歯の方はその都度取り外しの確認、夜間の消毒を実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	パッドを使用している方でもトイレで排泄ができるよう個々に声掛けを行いトイレに誘導している 夜間は安全策の為にパッドのみ交換の方が2名います。	排泄の失敗や見当識障害の症状によりトイレの場所が分からなくなる場合のため、トイレへの道順の掲示や、場所が分かるようにトイレのドアに貼り紙をしています。トイレで排泄ができるように、一人ひとりの状態の対策を話し合っています。立位が取れるようにと下肢筋力アップにもなるラジオ体操を毎朝行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事や水分がしっかりと取れているにも関わらず、慢性的な便秘傾向にあり下剤服薬により調整をしている。 下剤はドクターからの指示。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回の入浴は実施できている。 曜日、時間は固定されてしまっているのは現状。 義務ではなく、ゆったり、楽しく入ってもらえるよう心掛けている。	1階に半機械浴と2階に個浴を設置しています。浴槽を跨ぐことができなくなった際は半機械浴を使用し、安心して浴槽に浸かることができます。気持ちよく入浴してもらうことを基本に、一人ひとりにあった入浴方法で支援しています。自身で洗いづらい所をサポートするなど、残存能力をいかした支援を心がけています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜の睡眠に加え、日中の午睡や日中、その時その時の体調や気分に応じ、居室で休んでもらっている。 もしくはフロアでゆっくりとテレビ鑑賞をして休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	定期的に医療機関の往診や臨時往診により指示された薬を、指示、薬情報の記録を共有しながら服薬をしていただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日中の家事作業、手伝いを職員スタッフと一緒にやっている。 また、季節に即した行事を企画し、入居者様と一緒に楽しんでいる。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気、気候にもよるが日中は外気浴、周辺のゴミ集め、ゴミ捨て、花壇に水やりなど行っている。また、時間と余裕をもって地域に散歩も実施している。	花見や、薬師池公園など、季節の外出をしています。その人に合わせた距離や、近くのスーパーマーケットのコーヒーを飲むなど楽しみも見つけながら外出の機会を作っています。事業所駐車場の外気浴や花の水やりなど機会を設けては外の空気を感じる工夫をしています。	外の空気を感じる機会を定期的に作ることが期待されます。外出した内容が可視化されることも今後期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設方針として、利用者様個人での現金所持は控えていただいているが、施設では現金を預かっているので、ご本に様の希望、何かの事情が発生したときは施設責任者より現金を渡し、自由に使っていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	現在、電話や手紙でのやり取りを行える利用者様は少なく、必要とあれば職員が代わりに行って、その都度、利用者様に代わっていただいている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロア（食堂）では常時テレビをつけているが、食事時間は食事摂取に集中していただくためにラジオを流している。 日中、短時間においても空気の入れ替え、換気は行い、自然の空気を感じ季節を感じ取ってもらっている。	1人では出来なくてもフロアテーブルで隣合う4人だからこそ出来上がる作品もあると、利用者参加を基本とし、利用者主体で掲示物を制作しています。教師だった人にはホワイトボードに食事メニューを書いてもらう、馬のブリーダーだった人には職員が手作りした馬と厩の模型を飾り見てもらうなど、皆が集まる場所でも一人ひとりが安心できる場所になるように努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアのスペース事情によりテーブル数、座席数に限りはあるが、利用者様の個性や相性を考慮し、居心地の良いスペース環境を提供している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各利用者様の居室は、自宅で使っていた家具や寝具、小物を持参していただき、自宅により近い環境を作り快適に過ごしていただくよう配慮は行っている。	転倒リスクに気を付けた家具の配置をしています。入居の際には安心して生活してもらえるように、馴染みの家具などの持ち込みを家族や利用者に伝えています。居室の表札は、利用者の目線に合わせて低位置に設置し、自分の部屋と認識してもらうなど、細かい配慮を心がけています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	日常の生活動作（ADL）が妨げられないよう配慮し、過剰な介護にならないように必要であれば見守りで対応をさせていただき、一人一人が持つ残存機能を生かしてもらっている。		

事業所名	アクア淵野辺グループホーム
ユニット名	ユニット2

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	✓	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		✓	2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		✓	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		✓	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		✓	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		✓	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		✓	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		✓	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
		✓	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		✓	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		✓	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		✓	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		✓	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	淵野辺理念に尊厳、笑顔とあり、尊厳は淵野辺で生活をされる入居者様に向けて、その人らしい生活を送れるように支援を行っています。笑顔は職員にもですが、一緒に笑顔になれるよう実践しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	昨年度、今年度初めにおいて地域清掃に入居者様数人が参加される。また、近くの小学校より社会科見学の一環で企業訪問に参加させていただき、2年生の生徒数十名が訪れた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	上記にも記載したが小学生の見学は認知症という病気について、知ってもらいたい機会となっていると思います。また施設の職員の仕事などもその際に伝えているので、理解できるよう優しい言葉で説明をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度、長寿会会長の交代。自治会会長の体調不良などで地域の方々の参加が少なくなっているが、お誘いの声掛けの際に地域の運営など確認をさせていただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護者受け入れの際、また、その後のアフターケアについて相談をさせていただいています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3か月に一度、またその都度臨時の身体拘束防止委員会を行い、身体拘束になる事案、事象を話し合い、研修や会議の場において全職員に周知徹底を行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	3か月に一度、また、その都度臨時の委員会を開催し話し合いを行っている。虐待に関しては見過ごすことなく、ヒヤリハットなどを活用して対処している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修機会は乏しく、学ぶ機会も少ないが、理念の中に盛り込まれ、職員同士の間では常に理解をするよう促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が初めに契約を結ぶ際に重要説明事項を説明、その後契約に入る流れで、一方的な説明はせず、常に同意を求め、質問には答えるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者、ご家族からの意見、質問を反映する機会の場合、窓口は常にかいている。また運営側としてもより良い方向性を見出すために意見は反映している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行っているリーダー会議、フロア会議において、住みやすい環境作りや介護しやすい意見は聞き取り、運営に反映をしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	会社として、努めていると思われる。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	一人一人のスキルは違うので、同一視点では見ず、判断せず、その個人のスキルを活かすようアドバイスをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	社内の系列グループホームとは話し合いを持ち、改善し、質の高いサービスが行えるように努力はしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	努めています。 本人の安心を得るために常に耳を傾け、同調しながら、新しい環境になれる工夫を提案している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の意見、要望を伺い、計画書作成時に反映するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前の情報やご本人様、ご家族様からの聞き取りでサービス提供に反映できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の能力を活かし、利用者様同士の協力がある生活を目指し、一方的な関係には市内。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	関係を築くには難しいご家族もいるが、職員が積極的にご家族とのかかわりを持てるよう考えている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	職員が間に入って、会話を進めるなどコミュニケーションをとっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入って、会話を進めるなどコミュニケーションをとっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去時にカードやアルバムを作成し渡したり退去後も家族が立ち寄りやすいように声掛けをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の関わりの中で利用者の発せられる言葉や表情、行動から思いや意向を把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族やかかわりのあったケアマネジャーからお話を伺い、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の暮らしを介護記録に残し、カンファレンスやサービスにつなげられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様やご家族様から要望を聞き、ケアプランに取り入れています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日記録を見ながら、申し送りなどで情報を共有し、チームケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人一人に合ったニーズに沿ってご本人、ご家族に相談をしながら可能限り対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	月に一度、出前や食材を取り寄せ、夕食時に提供している 2か月に一度、理美容を利用している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者様についてはどんな小さなことでも気が付けるようにする。何かあればすぐに訪問診療時に訪問看護師が来設時に相談できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	入退院の際、ご家族様から情報や病院側からの情報を基にニーズの把握や支援内容の再検討を職員全員で臨機応変に動けるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入ky契約時に仮名r図、必要な状況や重篤な症状や緊急事態が発生した場合には医師やご家族と相談して対応に当たる。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	施設内研修を定期的に行いきゅへんじや事故発生時の対応、心構えの訓練を行っている。 フロアにマニュアルをおいてある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修で地震や火災、水害などの災害時に昼夜を問わず利用者様が避難できるよう職員全員が身につけているスタッフがチームの協力体制を活かせるようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回実施している防災避難訓練において、昼夜それぞれの想定においての訓練を実施している。 また、地域の参加はしばらくできていないが、必要時には駆けつけてくれるよう確認はされている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	施設内研修において、人権擁護やプライバシー保護を学び、実際に現場でそれらを活かしてサービスを提供している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症という病気の中ではどこまでが表面に現れているかわかりにくい、表情や言葉、仕草などから判断し様々なアプローチを、自己決定出来るよう環境作りを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の中でのタイムスケジュールは必要最低限の枠内に収め、そのほかは自由にしている、その際、職員は常に見守りを怠らないよう徹底している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服選びは病状から同じ服を着てしまうことが多いが、身だしなみは一二の始まりという知らせを兼ねて、髭剃りや顔洗いなど自由にやっていただいている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎月食事レクを実施し、その中で利用者が参加できる場所は参加していただき、出来上がりを待つ楽しみを味わっていただいている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の食事量、水分量は記録をし、食事残量から体調変化を感じ取り必要であれば医師に連絡をして指示を仰いでいる。 栄養状態は定期的な血液検査などで医師から情報共有させていただき対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎月訪問歯科の往診により、口腔内ケアを行ってもらっている。 必要であればスタッフへの口腔ケア指導を依頼し、学ばせていただいてご補任の状態に合わせた口腔ケアを実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	認知機能、身体機能の低下は見られるが、少しずつ時間をかけて自立に向けたアプローチを行っている その結果、排泄が自立した例もあるので、支援方法は常に考えながら取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	医師の指示のもと便秘時には下剤服用をしているが、その前段階で運動や水分、お腹の張りなどをチェックし、その都度適した支援を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は一番、利用者が落ち着ける時間であると考え、少しゆっくりとしていただくようその利用者にあった工夫をしている。 ただ、施設としては時間や曜日固定は他の人との差別にならないよう決めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者一人一人の体調や健康状態を考慮し、必要な措置として休息時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬は基本的に医師からの指示に沿って服薬をしているので、服薬確認後の反応や状態は細かく観察をし医師に報告はしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	管理者からの言葉に一人一人が主人公になれる場面作りを指示を出しているため、日ごろの作業でもその人のスキルや力量に合わせた作業を無理ない程度行っている。そこでは職員も楽しみながらやることを口約束にしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	レク時間や人手の多い時には散歩として外出、買い物を再開し始めた。コロナ機関の間、実施してこなかったため筋力低下がみられるので、今後は積極的に取り組んでもらう。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在は個人で金銭管理をしていません。施設管理者の方で一括管理をしております。 お金の大切さよりも人のやさしさが勝ってしまい他施設内で金銭の貸し借りがあったため。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自ら電話をしたい、手紙を書きたいといわれる方は少ない。手紙については必要であれば一緒に買い物に行き、はがきを購入し手紙を家族に送っている。 電話は事務所で職員がかけ、途中で交代をしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎月壁飾りを変更し季節感を出している 大きな合同企画などをやる時は施設全体を装飾し、全員で楽しめるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	限られたスペースではあるが、一つのテーブルに相性の良い利用者同士ならんでいただいたり、一人で過ごす楽しみがある人は、少し離れた席で落ち着いて過ごしていただけるよう支援をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時の説明で、住み慣れた自宅から家具や調度品を持参していただくことは話してある。 そその家具や調度費が利用者の気持ちを落ち着かせてくれるので配置など工夫はしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの場所や自分の部屋の扉の前には大きな張り紙をしている。その張り紙を確認して自分の部屋であるとうわかるよう工夫をしている。		

2024年度

アクア淵野辺グループホーム

事業所名
作成日： 2025 年 5 月 18 日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	16	実際の災害を想定し、備蓄品の試用や近隣住民の参加などの、課題の整理を行う。	災害訓練時に近隣の方や、自治会の方に声をかけGH職員と合同の訓練を行う。	運営推進会議などを活用し地域の方に訓練日や訓練内容をお知らせする。	10ヶ月
2	21	外の空気を感じる機会を定期的に作る。外出をした内容が可視化できるようにしていく。	毎月発行される広報をツールとしてご家族様宛に郵送しています。また定期的に行われている運営推進会議を活用して出席していただいた方にお渡しをしています。	広報については今後も発行をしてまいります。	1ヶ月